

輸入アサリの偽装表示対策技術開発～輸入アサリの 判別技術の開発～

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 水産総合研究センター
	公開日: 2024-07-17
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者:
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2010204

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution 4.0 International License.



輸入アサリの偽装表示対策技術開発 ～輸入アサリの判別技術の開発～

瀬戸内海区水産研究所 生産環境部 藻場・干潟環境研究室

研究の背景・目的

1. 国内のアサリの生産量が減少する中、海外からの輸入量が急増しています（図1）。
2. 市場で販売されているアサリのなかには輸入されたアサリを国内産と表示する例があとを絶ちません。また、種苗として輸入されていた場合は、国産と区別が困難となるためアサリの産地表示に関する国民の疑念が高まっています。
3. そこで、中央水産研究所並びに(株)東和科学と共同で、国産アサリ及び産地の異なる輸入アサリのミトコンドリアDNAの全長解析を行ってそれぞれの塩基置換を比較して産地データベースを構築し、これによる判別技術を開発します。

研究成果

1. 国内産（北海道，九州），大韓民国南部，中国大陸（2系統）からアサリを入手し，ミトコンドリア

全長解析を行い，それぞれの産地に特異的な塩基置換リストを作成することができました。

2. さらに，輸入量の多い中国大陸2系統と国内アサリの識別に関して，生鮮品のみならずあらゆる加工品にも適用可能なPCR-RFLP法による判別技術を開発することができました（図2）。
3. これにダイレクトシーケンスやAS-PCR等の判別手法を加え，各産地の詳細な識別が可能となりました。

波及効果

1. 本技術により迅速なアサリの産地判別が可能となるとともに，食の安心・安全の立場から原産地表示の適正化に貢献できます。
2. 放流された輸入アサリがわが国沿岸域で再生産しているかどうかを調べる事が可能となり，生態系保全のためにも活用できます。

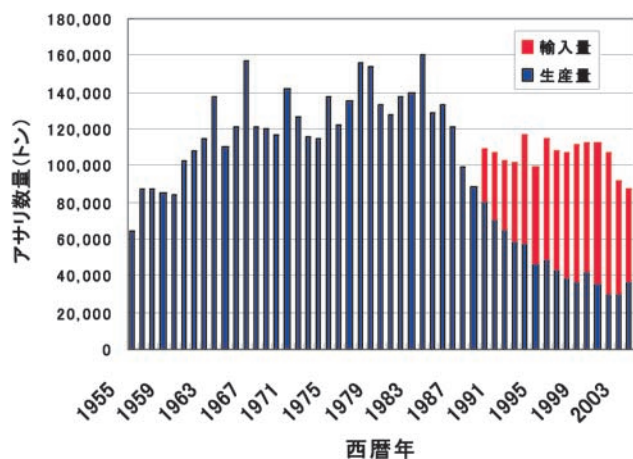


図1 アサリの生産量と輸入量

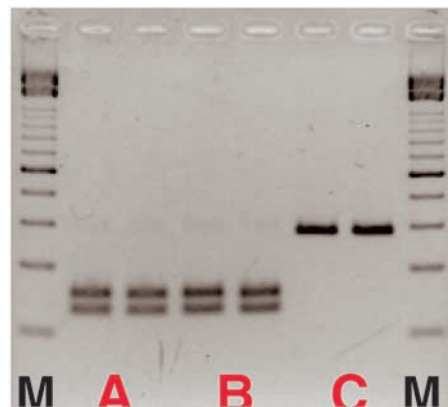


図2 中国大陸産(A)，韓国西岸産(B)，国内産(C)
アサリのPCR-RFLP法による迅速判別結果